

令和 5 年度研究推進計画

学 校 名 東広島市立板城小学校

校 長 名 中岡 正弘

1 研究主題等について

(1) 研究主題

「笑顔で表現する児童の育成」
～主体的な話し合いに繋がる「問い」とカリキュラム・マネジメントの創造を通して～

(2) 主題設定の理由

昨年度は、国語科を中心に各教科・領域と関連付け、横断的なカリキュラムを編成しながら深い学びを促すための授業「笑顔で表現する児童の育成」を目指して、研究を実践した。これらの取組の中で、「話す」「聞く」「話し合う」力の系統表を作成し、各学年の目指す児童の姿を明らかにしていくことができた。また、新たな対話トレーニングの方法を提案し、各学級で実践した結果、話し合いのスキルが身に付くとともに主体性も向上した。さらに、カリキュラム・マネジメントを行い、身に付けた学習を他教科・領域で生かすために、他教科・領域の単元を並行して行ったり、実施時期を近づけたりしたことで、効果的に表現力を育成することができた。しかしながら、カリキュラム・マネジメントを行うための編成におけるポイントが明らかにならなかったため、何を核とし、どのように繋いでいくのか、職員の中で共通認識を図ることが難しかった。また、「話す」「聞く」「話し合う」の系統表をもとに授業の中で、どの程度達成したのか見取るための検証方法が明らかにならなかった。

そこで本年度は、本校が作成しているカリキュラムデザインと関連付け、年間を通して計画的に表現力を育成するためのカリキュラム・マネジメントを行う。その実践と検証を行うことで、さらに効果的・効率的に表現力の育成を目指していきたい。話し合いに繋がる「問い」を核として、児童同士が対話を深め、表現力を効果的に高めていくために各教科・領域等と関連付けながら、縦断的・横断的にカリキュラムを編成していく。

(3) 研究仮説

話し合いに繋がる「問い」を核として、対話を深めながら表現していくために、各教科・領域と関連付けたカリキュラムの編成、深い学びを促すための発問の厳選、議論する場の設定を工夫した授業をしていけば、表現力を高めていくことができるであろう。

(4) 研究内容

- 対話を深めるための教材開発及び教材活用に関わる研究
- カリキュラムマネジメントを行い、各教科・領域等を結び付け、効果的に表現力を育成していくための研究
- 教師の指導力向上に関わる研究
- 児童、教師の意識向上に関わる研究

2 検証計画

検証の視点と方法

検証の視点	方法	検証の指標	達成目標
① 思考力・判断力・表現力の育成	単元末テスト	単元末テスト 思考・判断・表現 項目	正答率 70% 以上の児童 の割合 80% 以上
② 児童の表現(音声)の変容	パフォーマンス テスト	パフォーマンス評 価	B 評価児童 80%以上
③ 児童の意識調査における肯定的評価の向上	アンケート	児童アンケート	肯定的評価 80%以上
④ 主体的・対話的で深い学びを実現する授業の構築	授業評価表	教師の相互評価 (4段階評価)	肯定的評価 平均 3.2 以上
⑤ 教師の意識調査における肯定的評価の向上	アンケート	教師アンケート	肯定的評価 80%以上

3 校内研修計画

PLAN 本年度の研究の方向性の決定	
4月 5月	研究組織決定, 研究計画 実態把握のためのアンケート作成及び実態調査項目 検討 実態調査や意識調査の実施及び結果分析 研究推進計画
D0 研究仮説に基づく研究授業の実施・研究協議会の実施	
6月～7月 8月 9月～10月	理論研修(教科研究, 特別支援教育) 学習指導案検討 指導力向上研修 学習指導案検討及び授業実践 I期
CHECK 前期達成目標 ACTION 授業提案をもとに, より効果的な指導内容や指導方法, 評価計画を 検討	
10月～11月	学習指導案検討及び授業実践 II期
D0 研究仮説に基づく研究授業の実施・研究協議会の実施	
11月～12月 12月～1月 1月～3月	実態調査や意識調査の実施及び結果分析 研究の成果・課題のまとめ 研究紀要作成
CHECK 後期達成目標 ACTION 検証計画に基づいた結果分析・来年度の計画	

4 研究公開の予定について

公開予定日	なし
公開範囲	
公開内容等	(指定校・推進校等の名称、教科・領域等)